

## 「軍拡、改憲よりも くらし、平和 3・19 愛知・岐阜・三重・静岡一斉行動」参加の皆さんへのメッセージ

岸田政府は、戦後一貫して日本が選択してきた専守防衛政策をかなぐり捨て、安倍・菅政権が進めてきた集団的自衛権行使のための法整備から、米国の戦力の一翼を担うために沖縄・南西諸島にミサイル基地の設置を進めています。これが戦争を放棄し、一切の戦力を持たないと誓った憲法9条に違反することは言うまでもありません。同時にそれは、この国で暮らす人々の生活も命も危うくする戦争への道です。戦争に学問も産業も総動員する体制を着々と整備しているのが現状です。物価の高騰を受け、日々の生活に困窮する市民の生活を顧みず増税によって米国から兵器の爆買いを進めています。黙っているだけでは命も暮らしも守られません。暮らしと命を守るという国の役割を果たさせるために、「軍拡、改憲よりも くらし、平和」を実現する政治を求めて愛知、岐阜、三重、静岡の地から声を上げましょう。

2023年3月19日

憲法をくらしと政治に活かす 改憲NO！あいち総がかり行動

## 連帯メッセージ

『軍拡・改憲よりも くらし・平和 3・19全国一斉行動』にご参加の 愛知、岐阜、静岡のみなさんに、連帯のメッセージを送ります。

三重県は、県全体として「総がかり行動実行委員会」がありませんので、本日、四日市市で、「スタンディングとデモ行進」を行う、『戦争させない・憲法壊すな！よっかいち市民ネット』の場からのご挨拶となります。

私たち、四日市での行動以外にも、三重県下各地で、全国行動と連帯して 3・19行動が行われています。

安倍長期政権が進めてきた「戦争する国づくり」の総仕上げとして、岸田政権は、再び沖縄を犠牲にし、日本中を戦火にまきこむ危険な軍拡を行なおうとしています。

四日市では、1000人委員会の代表をゲストスピーカーに招き、リレートークを行った後、市内をデモ行進します。

みなさんと連帯して、一步一步、しっかりと歩きます。

2023年3月19日

戦争させない・憲法壊すな！よっかいち市民ネット

### 3. 19 東海四県統一行動への静岡からのアピール

「ウクライナ戦争」が一年を過ぎ、今なお激しい戦闘が続いています。この戦争が世界に与えている状況はきわめて深刻です。

力こそ正義だ、力によってしか平和はもたらされない、という軍事力=抑止力信仰が…20世紀がそうであったように…そうした状況がまたぞろ世界を覆いつつあります。この国も例外ではありません。

2月25日、岸田首相は記者会見で、「ウクライナの次は東アジアだ。わが国は、一層抑止力を強化する必要がある」と語っています。

言うまでもなく中国を敵国とした『台湾有事』を想定した発言です。しかし、「ウクライナの次は東アジアだ」というのは、まったくの事実の捏造です。

ウクライナは主権国家であり、台湾は主権国家ではありません。中国の一部であり中国の領土であることは、71年の国連総会決議を待つまでもなく国際的常識です。すでに1979年1月1日の中米国交樹立宣言以来、中国は繰り返し「武力統一の放棄」をかかげ、昨年10月の「共産党大会」においても「最大の忍耐をもって平和統一へと進む」と宣言しています。

何よりも、当時者である台湾の人々の世論は、台湾政府の調査ですら、なんと85%が「現状維持」を望んでいる。また、「米国に頼ってこそ台湾を守れるか」という問いには67%が、「守れない」と答えています。そして、台湾の対中貿易は、この緊張関係と言われているなかでも40%近くを占め断然トップです。台中関係は、経済的にももはや、共存共栄関係にあります。

ですから、『台湾有事』の言葉は、米国と日本が持ちこんだ対中国戦争のための扇動であり、台湾の人々にとってははなはだ迷惑千万な話しであり、あり得ない、まさに虚構・フィクションです。

このフィクションがまかり通る根底にあるのが、安倍政権以来、政権やメディアが扇動する「中国脅威論」、結果としての「一億総嫌中翼賛化」です。それを背景として今回の安保三文書・敵基地攻撃能力保有と五年間43兆円が出てきています。

78前の戦争がそうであったように、政権の思うままの扇動・誤情報に操られてはなりません。私たちは、もう二度と騙されてはなりません。

この年を“あらたな戦前”にしないために、断固とした反戦・平和の闘いに立ち上がりましょう！！

2023年3月19日

戦争をさせない1000人委員会・静岡